# 広島県知事・福山市長会談　議事要旨

**（開催要領）**

１　日　時：2025 年（令和７年）２月 17 日（月）14：30～15：20
（ぶら下がり取材～15：30）

２　場　所：広島県庁　第一応接室（対面開催）

３　出席者：広島県知事　湯﨑　英彦
福山市長　　枝広　直幹

**（意見交換項目）**

議題１　世界バラ会議福山大会と Rose Expo FUKUYAMA 2025 について
議題２　ひろしまＡＩサンドボックスについて
議題３　地域経済の活力の向上について
議題４　地域共生社会の実現に向けた県民の理解と行動の促進について
議題５　少子化対策とこども・子育て支援の充実について

**（概要）**

**＜議題１：世界バラ会議福山大会と Rose Expo FUKUYAMA 2025 について＞**

●市長

知事、本日はお忙しい中、こういう機会を作っていただきまして、ありがとうございます。

いよいよ、Rose Expo に続いて、節目となる世界バラ会議を開催いたします。この機会に、私たちのばらのまちづくりの歴史、そして広島県の魅力を世界の人々に発信したいと考えています。

開会まで 100 日を切りました。大会ボランティアも今 207 人。そして、大会への申し込みも 27 カ国から 412 人。すでに３年前のオーストラリアのアデレード大会の参加国数、参加人数を上回っていまして、アジアで２回目の開催となる広島県福山市の大会に対するばらの専門家たちの関心の高まりを表しているんだと感じています。

これまで知事には実行委員会の特別顧問に御就任いただき、御支援をいただいております。それからＧ７広島サミットの場を通じて、また、先日はフラワーバレンタインのときにバラ会議の話題を持ち出していただいて、県内の生産者を訪れたらどうかとこういうアドバイスをいただきました。様々な場でＰＲをしていただいてることに感謝申し上げたいと思います。これから残された期間はしっかりとした誘客に更につなげていきます。

大阪・関西万博との連携も大変重要だと思っています。それからＪＲ西日本が新しい観

光列車「はなあかり」を４月から大阪・尾道間を走らせ、福山にも停車してくれます。そういう場を通じてもＰＲをしていきたいと思ってます。

知事は「おいしい！広島」プロジェクトに力を入れておられ、そういうプロジェクトにおいても、更なる誘客促進につながるような取組をお願いできればと思っております。

大会本番の５月 19 日には、開会式で知事に歓迎の御挨拶をお願いしたいと思っています。私は国際会議に不慣れなものですから、知事に雰囲気を作っていただきたいと思っています。

それから大会期間中に参加者の皆さんには、ばら園で市民と交流するような機会や夜店に御招待して市民と交流をする機会も考えております。先ほど申し上げました県内の生産者や平和記念資料館などの施設をめぐるツアーも予定しています。

参加者にこの広島を楽しんでいただけるように、我々も取り組みます。知事にも御支援をお願いしたいと思います。

○知事

世界バラ会議福山大会 100 日前ということで、随分前から準備をされていましたが、いよいよ近づいてきました。

いつも新聞を拝見していますと、いろいろなバラを活用した新しい商品が作られたり、先日はバラの香りがするワインができたり。バラの香りは酵母が作っているのでしょうか。

●市長

酵母から香りを引き出す技術がなかなかうまくいかなくて、やっと今回福山大学が作られたと聞いています。

○知事

すばらしいと思います。世界中で売れそうな感じがします。

大会 100 日前イベントを含めていろいろなイベントが盛り上がってきていますよね。

今、御説明いただきましたツアーであるとか、あるいは「福山版ガーデンツーリズム」について、我々でも情報発信させていただいたりしていますけれど、世界バラ会議福山大会が、Ｇ７広島サミットに続く、世界に対して福山、広島の魅力を発信する機会にしていければと思いますし、世界バラ会議福山大会の情報発信を引き続きやっていきたいと思います。

「おいしい！広島」との連携、福山にもおいしいものがたくさんありますので、連携させながら、この大会を盛り上げていきたいと考えています。それによって、大阪・関西万博来場者からの誘客を含めて、国内外から観光客に来ていただけるようにつなげてまいりたいと思います。

福山でしっかり準備をされていて、私の貢献が足りていないと思っている中、開会の挨拶をさせていただけるのはおこがましい感じもしますが、この国際会議を盛り上げる一助になるのであれば、喜んで務めさせていただきたいです。

●市長

平和資料館にツアーで訪問することになっていますが、大変な人気なんですね。そういうところで、今、「おいしい！広島」プロジェクトの一環としてお弁当を提供するというのを担当者で企画しているようですね。そういう機会で「おいしい！広島」に触れてもらえれば、いいなという思いを持っています。

○知事

バラワイン、みなさんに飲んでいただいたら驚くと思います。どれぐらい本数があるかわかりませんが、来る前に全部売り切れてしまうかもしれません。

**＜議題２：ひろしまＡＩサンドボックスについて＞**

○知事

これまでもひろしまサンドボックスにおいてＡＩを使った実証もありましたが、今回ＡＩに特化した取組を始めました。最近では生成ＡＩが大変注目を集めて、スピードも加速しています。中国で新しい技術が話題になっていますし、日本でもオープンＡＩとソフトバンクが大々的に事業展開をするということがニュースになっていますが、すごいスピードで進化するＡＩ技術は、様々な課題を克服する可能性を秘めていると考えています。

これまでのサンドボックスにおいても、福山市と連携させていただいており、「スタートアップ共同調達推進事業」をサンドボックスの一環でやっていますが、ＡＩによる衛星画像解析技術の利用により、遊休農地の確率を算出するシステムを作り、農地の現地確認作業の省力化につながっています。こうした取組と、ＡＩの可能性を活かして、「ＡＩで未来を切り開く」というスローガンでやっていますが、ＡＩとデータを活用できる環境整備と人材集積を進める、ひろしまＡＩサンドボックスを始めました。

県内産業や地域が抱える課題の解決に向け、全国のＡＩ開発者と県内企業や市町をマッチングして、協業しながらＡＩ技術を活用したソリューション開発や実証を進めていこうというものです。

福山市にも、多くの企業がありますので、是非積極的に事業参画していただけるように御協力いただければと思います。福山が持つ産業基盤を活かし、ＡＩ技術を活用した先進的な取組を一緒に進めることができればと考えています。

ＡＩはデータが命であって、ＡＩだけというのは存在してなくて、データだけだと充分に役に立てられません。ＡＩ×データが次世代のエンジンとガソリンになってきます。福山の産業におけるデータが大きな可能性を秘めていると思います。

これまで、特にアメリカで開発されているのは、主には消費者の情報データで、人の移動、クリックの嗜好、あるいは今の生成ＡＩはネット上の情報です。

産業情報のデータはオープンではないので活用されていません。そこには非常に大きな可能性が眠っているということで、そこを組み合わせることによって日本のＡＩ活用の鍵になるといわれていますから、産業が集積された福山は宝の山だと思っています。ＡＩがエンジンで、データがガソリンだとすると広大な油田を持っているということです。

●市長

そういう技術や情報をいかにみんなで共有するかというコンセンサスづくりが重要ですね。

○知事

企業が情報を出すのは難しいところではありますが、データは宝なので掘削して、うまく活用することによって、世界に先進的でいろいろなことができるのではないかと考えています。

●市長

福山市内でもＡＩに関する様々な取組やセミナーなどが開かれており、多くの中小企業の経営者が参加してるという意味では、関心の高まりを感じます。

先ほどお話がありましたスタートアップ共同調達推進事業、耕作放棄地の検出の事例を出されながら、御説明いただきましたが、福山市も早速活用させていただきました。検出の効率化につながったという実感もあります。聞くところによりますと農水省からアプリケーションが提供されてまして、かけ合わせれば、今後は更なる管理コストの節減につながっていくという話も聞いています。我々も早期に取り組ませていただいて、実感をしているため、県内の市町でもどんどん共有されて、利用されていけばいいなと思っています。

本市では、グリーンな企業プラットフォームという取組を先行しています。グリーンな企業というのは、我々は広く捉えていまして、何も環境技術だけじゃないと思っています。例えば、共働きや共育てを積極的に推進する、実践するような企業もそのうちの１つだし、障がい者・高齢者や女性の雇用に熱心な企業もグリーンと捉えています。

当然、ＡＩを活用すれば、様々な企業の魅力につながっていくことは間違いありませんし、ＡＩを使うことで更なる環境技術が進んでいく、女性や障がい者の雇用がしやすくなるといった二次的な効果も期待されます。グリーンな企業プラットフォームの場を通じても、そうしたＡＩの活用方策を検討していきたいと思ってます。できれば事例の創出にもつなげていきたいと思ってます。今回、取り組まれているＡＩサンドボックスは、我々が取り組むグリーンな企業をどんどん増やしていく大きなきっかけになってくれると思ってますので、是非、備後圏域内の企業にも我々からも働きかけをしていきたいと思ってます。

先ほどのお話の中で、産業が持っている情報をみんなが共有し、そこからイノベーションを生み出すような取組につなげていくという知事の構想を教えていただきましたけども、例えば、公的な機関、公的な場に、企業が持つ情報や技術を持ち寄って、何らかの実験が行われて、新たなイノベーションにつなげていくことも、あり得ると思います。

○知事

例えば県がやっているドボックスという、土木関係のデータを集めたデータ連携基盤を作っていますが、そうしたものの産業版という形もあり得ると思います。

データをオープンにする効果もありますが、データを必ずしもオープンにする必要はなくて、クローズドの中でＡＩを賢くするためにデータを使い、賢くなったＡＩを他に応用していく。そうした形で、自分のデータを必ずしもオープンにする必要はないと思います。

まずは、例えば会社で困っていることをＡＩで解決しようとするときに、ベースとなるデータを提供いただいて、ＡＩを賢くして使っていく。次のステップとして、データをオ

ープンにして活用していくこともありますが、産業面だと、裸のデータを本当にオープンにするのは難しいかもしれません。

●市長

なるほど。必ずしもオープンが前提ではないということですね。

私も曖昧な理解のまま、懸念につなげてましたけども、そういうものが払拭できれば、取組が進みますよね。

＜議題３：地域経済の活力の向上について＞

●市長

私の方からは、大きく２つ、「企業の人材確保について」と「産業用地の創出について」お話をさせていただきたいと思います。

まず、企業の人材の確保の課題なんですけど、私たちは長年、「福の耳プロジェクト」というものをやっていまして、職員が中小企業を訪れて、経営者から課題を聞き、解決策につなげていくプロジェクトを進めてきました。直近３年間で、人材確保を課題に挙げた企業が約６割にものぼり、最大の関心事項になってます。

本市でも、若者の人口流出が課題と考えており、要因は、進学期、それから就職期であります。これはどこでもそうだと思ってます。従って、まず１つの取組としては、若者が学ぶ機会を増やす、働く場の選択肢を増やす取組により、少しでも歯止めがかかればいいなという思いで取り組んできました。

１つは、市立大学に新しい情報工学系の学部をつくり、学びの選択肢を増やす、それから先ほど申し上げましたが、グリーンな企業プラットフォームという場で様々な技術力だけではなくて、若い人が働く場として魅力がある企業があるんだということをもっともっと発信することで、若い人が地元の企業に目を向けるという取組をしてきました。

それと市立大学の新学部創設について、隣接する県有地を購入させていただきました。新学部の建設に１歩も２歩も進むことができ、感謝申し上げたいと思います。

県でも若者の転出超過の解消に向けて取り組んでおられると聞いております。今年度に行った人口流出の状況についての分析を踏まえて、新年度からは若者の地元定着や転入促進に向けて、市町への交付金の創設に加えて、施策の構築を連携して行っていただけるという話も聞いています。課題を共有する県と県内市町が一緒になって、この問題に取り組むことで、住み続けたい市町をつくっていきたいと思っています。

人材不足の問題には外国人材の確保も重要です。地域の産業にとっては欠かせない存在であります。一方で、これからもどんどん外国人住民が増えると、いくつかの軋轢が生じる懸念も出てくるんだと思います。一番大きな問題はコミュニケーションの問題だと思います。外国人の日本語に対する課題を少しでも解消してあげることによって、就労面と地域生活の面と外国人住民の教育面など、それぞれの分野で日本語のコミュニケーションの支援を考えていきたいと思っています。特に福山市は産業のまちですから、中小企業の現場で、外国人材の日本語教育の支援を望む声が上がり、じわじわと関心が高まっていることを感じています。産学官で協議会を新たに立ち上げまして、それぞれの立場で、どのような課題解決に向けた取組ができるのか、そうすることで、産業の現場で外国人の就労者の皆さん方が気持ちよく受け入れられ、気持ちよく働く、そんな環境を作っていきたいと思っています。

県においても、外国人材から、働く・暮らす場所として、広島県を選んでいただける

ように、是非御支援をお願いしたいと思います。

次に２つ目の大きな柱ですが、産業用地の創出であります。福山北産業団地第二期事業については、大きな財政支援をいただきました。そして企業誘致活動にも県の知見をたくさんいただきました。おかげさまで、あっという間に売れ、２区画が現在交渉中でありますけれども、非常にいい話合いがなされているというところであります。本当に感謝申し上げたいと思います。

また、ちょっと話はずれるんですけれども、産業を支える本市の渋滞解消についても、これまでに大変御支援をいただいており、合わせて感謝申し上げたいと思います。

話は戻って、これから新しい産業団地も探していかないといけません。これまで県の支援をいただきながら、適地調査を進めております。そして来年度からは１歩進めて、概略調査という段階に入っていきます。できるだけ早い新たな産業用地造成の可能性につなげていきたいと思ってます。

それから、もう１点は、地域未来投資促進法の活用であります。年度内には、重点促進区域を設定し、県の基本計画に盛り込んでいただく。そして、民間開発、民間事業者がどんどん立地をしていく、そんな環境を１つでも２つでも増やしていきたいと思っております。

そのためにも、県と連携して市内外の企業訪問や、あるいは企業ニーズを御共有いただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○知事

まず、人材確保の面ですが、特に情報系の学部学科の学生達が卒業すると、ほとんど東京などに取られてしまうという状況がありますので、これを防いでいく。また、広島の中でも情報についてのキャパビリティを蓄積していかないといけないと考えておりまして、県内就職を返還免除の要件とした奨学金制度を作りました。福山市立大学に新しく情報工学部ができたあかつきには本制度を活用いただきたいです。

また、グリーンな企業プラットフォームに係る点ですが、職場環境を整備していくという点については、まずは働きやすいという点、「時間や場所にとらわれない柔軟な働き方」や「休みを取りやすい」といった働きやすさ、また、個々の能力を発揮できる多様な働き方、それぞれのライフスタイルに応じて柔軟に働くことができる労働環境を整備していくことが重要だと思っています。

それに加えて「働きがい」、エンゲージメントのことですが、これを向上させることが能力をしっかり発揮させる上では重要だと思っていますので、従業員のみなさんが、働きやすさと働きがいを両輪として活躍できるような、そういう組織を実現していく、その後押しをしていこうと取り組んでいるところです。

働きがいについては、企業経営者を対象とした働きがいの向上、これは「働きがいがないとパフォーマンスが充分上がらないですよね」といったことの意義を理解してもらうことや効果的な取組を波及させるイベントの開催、優良事例の発信、あるいは働きがい向

上に資する取組に対する補助をしているところです。
今後も、働きがいのある場を作っていくことが重要だと思っているので、「働きやすさ」と「働きがい」のある職場環境の整備、結果として、従業員のエンゲージメントの強化を企業価値向上に向けた投資として積極的に取り組んで欲しいと考えています。これは「人的資本経営」と呼ばれるものですが、これを県内企業に普及していきたいと思っています。
また、人口流出の大半が若年層となっており、県だけではなく、県と県内市町の共通の課題であると認識しています。
来年度は県と市町とが着想段階から一体となって議論し、実効性の高いプロジェクトを創っていければと思います。
これまで、広島市と福山市と県の３者でいろいろと協議してきて、社会減対策に関して先行して議論しているところですが、福山市においては、備後圏域の人口流出を防ぐダム機能を果たしていただきたいと思っていますし、果たしていただく必要があると思っております。一層の連携強化を図りながら、インパクトのあるプロジェクトを一緒に創っていければと思っています。
外国人材については、育成就労制度を見据えた取組と、県内への定着を促進する取組の２軸を強化したいと考えています。
まず、育成就労制度に向けた取組では、2027 年（令和９年）の制度開始に伴い、特定技能１号への円滑な移行に向け、日本語学習支援に新たに取り組むこととしています。
また、県内への定着を促進する取組では、「就労環境面」の支援として、外国人材の処遇改善など経営者向け勉強会の実施や外国人材のための良好な住宅確保について、県内企業と連携して取り組みます。
「生活環境面」の支援においては、私も留学したときにお世話になりましたが、外国人コミュニティの活性化を支援するとともに、ウェブやＳＮＳ等を活用して、地域行事等の情報を提供し、コミュニティの中で地域とつながりを持ち、生活に必要な情報を得られる環境の充実を図っていければと思います。
それと、全国知事会において新たに設置された「外国人の受入と多文化共生社会実現ＰＴ」に本県も参加し、今後、育成就労制度に円滑に移行していくための必要な事項や外国人の受入環境整備等について検討を進め、国等に要望活動を行っていきたいと思います。こうした取組を通じて、「外国人材から選ばれる広島県」を実現してまいります。
新たな産業用地の創出については、本県では、県営産業団地に加えて、市営産業団地や民間遊休地など、多様な主体との連携・共同による産業用地の確保に努めているところです。
福山北産業団地第２期事業については、市と県が一体となった産業用地確保の取組のモデルケース第１号で、非常に早く売れたというか、協定を結ぶことができるなど、他の市町の参考になるような好事例となったことは喜ばしく思っています
本県としても、新たな産業用地の確保が必要だと考えており、東広島市の入野地区で新

たな産業団地の造成を開始することとしました。

そのほかにも、民間の開発事業者による産業団地開発を支援するため、「民間産業団地造成助成制度」を新たに創設する予定としているので、福山市においても是非御活用いただければと思います。

このほか、市町による産業団地の造成についても、適地調査や造成に対する助成制度を設け、これまで福山市が実施した立地意向調査などに対して、支援を行ってきたところですが、引き続き市と連携しながら、情報共有や企業訪問などを行い、地域経済の活力向上につながる産業集積に向けて、産業用地の確保やオフィス型の企業誘致に取り組んでいければと考えています。

また、地域未来投資促進法による重点促進区域の設定や特例措置の活用については、企業の進出機会を逸することの無いよう、国への基本計画の変更申請などの必要な手続きについて、福山市と密に連携していきたいと思います。

●市長

冒頭におっしゃられました奨学金制度について、大変ありがたい制度だと思っています。是非、新学部のスタートに合わせて、志望者にしっかりと伝えていきたいと思っています。

それから働きやすい職場づくりが流出防止の１つの鍵になると考えています。エンゲージメントを高める強化をする職場や人的資本経営ですね、何度も何度もお話をして恐縮ですけども、グリーンな企業プラットフォームの場でもしっかりとそういう意識を浸透させるような取組をしていきたいと思います。

働きがい向上のための補助金を広島県が作っておられ、オンラインセミナーの参加や補助制度の活用を呼びかけたりしていますけれども、まだ浸透が行き届いていない感じがしております。

それから、若年層の転出防止という議論になります。私も若いときに、福山を出た人間なものですから、やや耳の痛い話ではあるんですけれど、たしかに、そのまま学校を出て、福山に就職をしてくれるというのも一つの人生設計としては望ましい、ただ、そういう選択肢もあれば、一旦は出るけれども、それぞれのライフステージの節目節目で、故郷に目を向けるような機会があると思うんですね。みんながそういうときに、福山が出身者を受け入れやすい受け皿をしっかりと用意しておくということも必要な気がするんです。だから流出防止対策に加えて、戻ってくるときに、やさしい、温かい制度づくりもしっかりとしていかないといけないなという思いを改めて持ちました。

外国人の語学学習、日本語の課題も、広島県でいろいろ御検討いただいてるようですから、我々の取組がいずれ広島県の取組に融合していくことも念頭に置きながら、まずは我々なりの対策に努めていきたいと思っています。ありがとうございました。

○知事

厳密にいうと、転出防止ではなく、転出超過の防止ですね。バランスをとっていくことが大事なのかなと思います。

**＜議題４：地域共生社会の実現に向けた県民の理解と行動の促進について＞**

○知事

これは御承知のとおり、価値観やライフスタイルが変わってきていて、人と人とのつながりが希薄化して、コミュニティ機能が弱くなっているところです。

これまでの福祉施策は、高齢者や障がいのある方など、対象者・分野別にわけた縦割りの制度の充実が図られてきましたが、ひきこもり、老々介護、ヤングケアラーなど、個人や世帯が抱える複合的な課題や制度の狭間に起こる問題が意識されるようになってきました。

こうした様々な課題を抱える人が、社会や地域から孤立することで、必要な支援につながらず、課題が一層深刻になってしまうことが懸念されます。

県ではこうした様々な課題を抱える人も含めて、県民の誰もが尊重し合いながら安心して暮らせる「地域共生社会」の実現をめざし、「第２期広島県地域福祉支援計画」の取組を今年度から開始しました。

その主要な取組の一つに「県民の理解と行動の促進」を位置付けています。県民の一人一人が、「身近なつながり」を通じ、様々な悩みを抱えた人に「気付いて」「気に掛ける」意識を持ち、その上で「手を差し伸べる」ことへつなげる、こうした意識と行動を広げていくことをめざしています。

具体的な取組として、2025 年度（令和７年度）から福山市内の２つの地域において、住民の「気づき」から支援につなげていく住民主体のモデル活動を進めていくことを考えています。モデル事業の実施に向けては、事前に福山市へ相談させていただき、御理解等をいただいたことに厚く御礼を申し上げます。

またモデル事業を進めていくにあたって、２点ほどお願いがあります。

１つ目は、この取組は地域の中で、課題を抱える人への意識を住民のみなさまが自ら広げていき、必要な支援につながる流れを作っていく試みですが、同様に重要となるのは、住民だけでは支えられない課題の受け皿となる、専門的な公的なセーフティネット機能も備えることです。

今回のモデル活動の実施に当たっては、各種の相談支援機関を始めとする公的機関に積極的に関わっていただけるよう、御協力をお願いしたいです。

２点目は、今回のモデル地域は、特性の異なる地域を選んでいます。１つは「都市部の西学区」、１つは「中山間部の常金丸(つねかねまる)学区」の２つです。

これは、各地域の実情等に応じ、また地域の強みを生かした活動が展開されることを期待して、選ばせていただいています。時代に応じた住民同士のつながりや地域特性を踏まえた新たな地域コミュニティの形を模索していく取組でもあります。

つながりが薄くなっていく現代社会において、「他人に関与しない」という意識から、「他人を気に掛け合う」という意識や行動へ変えていこうとする大変難しい試みですが、この活動を通じて得られる成果や課題等を福山市とも共有させていただいて、今後の地

域福祉施策の方向性を一緒に検討していただければと考えているので、御協力をお願いできればと思います。

●市長

地域コミュニティが希薄化し、これから人口減少が更に進行していく中で、新しいコミュニティのあり方を模索しないといけないんだという知事の問題提起に賛同させていただきます。そしてモデル地域にも選んでいただき、ありがたいことだと思ってます。と同時に、地域特性の異なる２つのエリアの中に、あるいは、県として課題の芽生えを見てとっていただいているのかもわかりません。そうであるならば、しっかりと我々自身の問題として取り組んで、まずは好事例につなげていくという思いで受けとめないといけないなという思いもしています。

やはり世代に応じて、やりたいこと、関心を持つこと、やらなければいけないことなどは違うと思いますけれども、まずはその共通する関心の下に、地域の人たちが、集まる。集まらないとそこにどういう課題が生じているのかという気づきにもつながらない。気づきにつながって、初めて手を差し伸べるという行動につながるということのような気がします。

住民主体の地域活動ということではありますが、知事がおっしゃるように、そこにしっかりと公的機関が必要な場合にはサポートするような体制を考えていきたいと思っています。

もう既に県ともいろいろと御議論をさせていただいているようで、１つの地域では、縦割りの支援にとどまらない、横串を刺すような専門職チームを作って、課題に応じて、サポートするということの整理を進めているようです。しっかりとした取組につなげていきたいと思います。

それから、２点目の話ですけれども、ここに出た成果や課題は、おそらく県内の各市町に共通する課題であるでしょうから、しっかりと広げていけるような、そんなヒントが盛り込まれるような事例にしていきたいなと思います。ありがたいと思っています。

**＜議題５：少子化対策とこども・子育て支援の充実について＞**

●市長

まず少子化対策のポイントの１つは働き方改革にあると思っています。ワンオペ育児から解放されて、仕事と子育ての両立ができる働き方を実現する。それが未婚化の解消にもつながるということだろうと思います。是非、そうした企業の輪が広がるような御支援やアドバイスをいただければと思っています。

それから、ネウボラセンターを８月に開設しようと準備しています。福山ネウボラを更に強化して、こどもだけにとどまらず、若者も併せて支援します。若者の悩みにも対応できるような福山ネウボラに強化をしていきたいと思います。

広島県が旗を振っていただいたネウボラの取組を参考にしながら、強化につなげていきたいと思っています。

○知事

働きやすさ、働きがいは少子化対策にとって重要なことだと思っています。こうしたものには、男性が育休を取得しやすいといったことも含まれますが、広く「人的資本経営」というものの中にも入ってきますので、積極的に進め、企業の行動変容につなげていけたらと思っています。

もう１つ現実として大きな課題なのは、働きやすさが進み、女性の就業率が上がってきている中で、依然として家庭内では家事・育児が女性に偏っているという状況があります。

それがこどもを持ちたいという希望を実現する上での大きな課題となっています。

これまで女性活躍推進法というものはあっても、男性の活躍を推進するものはありませんでしたので、今年を「男性の活躍推進元年」として、仮称ではありますが、「男性の家庭生活における活躍の推進に関する条例」、略称「男性活躍推進条例」を創って、男性の家事・育児への参画を促していこうと思っています。是非これも御協力いただければと思います。

ネウボラについては県も「ネウボラセンター」に期待しております。我々も、ネウボラ相談員の相談対応の質も高めていくことが必要だと思っておりますので、相談者に寄り添った支援ができるように、福山市の取組を後押ししていければと思います。